



# Monthly Report

## ロータリーは世界をつなぐ

RI会長：マーク・ダニエル・マローニー 会長：高島秀樹 幹事：田中理

例会場/JRホテルクレメント高松3階「玉藻の間」 毎週水曜日 12:30~13:30



### 2019-20年度 9月25日 第12回

日時/令和元年9月25日(水)12:30~

場所/JRホテルクレメント高松 2F

#### 会長挨拶 会長 高島秀樹

「私のボランティア活動」

平成21年11月12日、天皇陛下御即位二十年をお祝いする国民祭典を機に発足いたしました。事業名は「建国記念の日 奉祝香川県民の集い」でスタートしました。「すべての県民が立場の違いを超え、国とは、古里とは何かを共に考える機会を提供し、国柄や土地柄を慈しむ心を養う」のを目的としました。

しかし、天皇制が前面に出過ぎているとの指摘があり、平成28年2月11日の開催から「奉祝」を「を祝う」に変更して、事業名を「建国記念の日を祝う香川県民の集い」としました。組織は、主催側の総括アドバイザーと運営委員会からなっています。

総括アドバイザーは名誉会長、名誉顧問5名、顧問27名からなり、名誉会長は松平頼武氏（松平公益会 会長 松平家14代当主）運営委員会は会長、副会長3名、運営委員長、運営委員4名、会計、監査からなり、会長は佐伯 勉氏（松平公益会 理事長）、運営委員長は私が担当してます。後援は香川県・香川県教育委員会・高松市・高松市教育委員会です。

式典は、第一部で国会議員・香川県知事・高松市長・主催側会長挨拶があり、第二部では「高松一高合唱部による日本の歌」と「記念講演」を行います。発足時は、来場者数も200~300人でしたが、近年は、800~1,000人までの大きなイベントになっております。開催場所はサンポートホール高松 3階大ホールです。是非、参加して頂きたいと思えます。

#### 卓話 吉田 茂会員

「クラブ研修リーダー育成セミナーに参加して」

高崎ロータリークラブの田中久夫氏の基調講演「ロータリーの神髄、それは仲間との親睦と奉仕」の要約

##### 1 ロータリアンの現状

日本のロータリークラブ数は2,267クラブ、ロータリアンは88,087人、1クラブ当たり38.8人。34地区中の19地区で518人増、13地区で367人減⇒日本で151人増。

##### 2 新会員に聞いた入会の理由

勧誘、仲間、奉仕。入会者を勧誘できるのは、新会員（若い人）である。

##### 3 ロータリーの現状の問題点

- (1)シニアが活躍していない。
- (2)新会員に対するロータリーの教育不足。
- (3)会長・幹事のやる気のなさ。
- (4)若手・女性の入会が少ない（ロータリーに魅力がない）。

##### 4 ロータリークラブを退会した理由

つまらない。人間関係。高齢化等。会費が高い。しかし、京都市南RCの年会費は90万円、250人の会員で空気を待っている。

##### 5 会員増強の具体的方法…「夜間・会員増強会議」

- (1)若手会員を中心の参加者によるリストアップ（相当数）…重複する。
- (2)その場で電話をして、リストアップした人で説得する。
- (3)訪問のアポは、翌日が理想。

##### 6 クラブの活性化の方法（高崎ロータリークラブ）

- (1)握手タイム（くじ引きによる座席指定との組み合わせ）
- (2)仲良し団体
- (3)他クラブとの夜間交流例会
- (4)例会は、会員がよろいを脱いだ状態であることの周知

##### 7 ロータリークラブの魅力

- (1)老タリアンには、「今日用」と「今日行く」
- (2)仲間との奉仕活動による達成感・感動
- (3)品格の完成の場、心を磨く場、ノブレス・オブリージュ
- (4)知好楽…論語。これを知る者は、これを好む者に如かず、これを好む者は、これを楽しむ者に如かず。如かず=かわない。これ=ロータリー。研修リーダーの役割。

### 三三三箱

多田会員「お先に失礼します」

計¥1,000 合計¥96,000

#### 会員掲示板

- メークアップ 松村英幹さま(高松RC)
- メークアップ 森(恒)会員、上村会員、堀(祥)会員、豊田PDG

ロータリーソング  
「それこそロータリー」  
ソングリーダー 平井会員

### 2019-20年度 10月2日 第13回

日時/令和元年10月2日(水)12:30~

場所/JRホテルクレメント高松 2F

#### 会長挨拶 会長 高島秀樹



今日は太田PDGから、「職業奉仕とは何か」の卓話をしていただきます。

ロータリーには五大奉仕部門があり、クラブ奉仕、職業奉仕、社会奉仕、国際奉仕、青少年奉仕を中心とした委員会で構成されています。クラブ・社会・国際・青少年は奉仕ターゲットが明確化されていますので理解しやすいと思いますが、職業奉仕はターゲットがなく、範囲が広く理解に苦しみます。

「職業奉仕思想」はロータリーの精神、哲学そのものと言われています。「職業奉仕」という言葉の意味は、「職業」とはお金を儲けること、つまり自分の為のものであり、家族や従業員を養わなければなりません。そして「奉仕」とは、自分以外の人の為に尽くすことです。全く逆の意味の言葉が一緒になって「職業奉仕」という言葉になっている為、解りにくいのです。これは、完全なるロータリー用語であり、辞書には載っており

## 例 会

ません。

「職業を営むことが、世のため人のための奉仕となる」という意味があるそうです。この言葉が一番の難解な点であり、理解しなければ「ロータリーの精神、哲学」は永遠の謎となってしまいます。

さて、今年度の運営方針にも入れていますが、例会に出席すると「童心に返ろう」の意味は、子供の様に、純粋な気持ちで物事を見られ、新しいことに挑戦でき、思い切り笑ったりすることで、ストレス解消ができることが、仲間たちとのコミュニケーション、親睦が図れるという意味だと思えます。

ロータリーの原点は、「親睦と奉仕の調和」であります。「親睦」をもっと深めること、「職業奉仕」につながる奉仕の理解を深めること、すなわち「職業倫理」に徹することですが、ロータリアンの使命だと思います。倫理とは「人とし、人間としての、正しく歩む道」のことです。

本日の卓話で太田PDGから「ロータリーにおける職業奉仕の歴史と役割・本質」を聞いていただき、理解を深めてもらいたいと思います。宜しくお願いたします。

### 卓 話

太田英章 PDG



#### 「職業奉仕とは何か？」

ロータリークラブは今から114年前、1905年に、アメリカ合衆国で生まれました。西部開拓のフロンティアとして物質的繁栄と悪徳のうずまくシカゴでありました。アルカポーネなんて言うギャングが暴れていたころです。

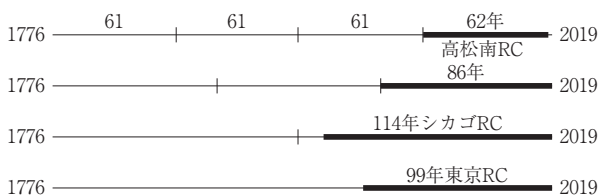
アメリカという国は、皆さんが思っているより、ずっと若い国であります。1776年の建国ですから、今年でたった、243年の歴史しかありません。そのころ私は、アメリカ建国180年目の1956年に、アメリカ東部ワシントンDCの南にある。ヴァージニア大学の学生でありました。つい先日のようにも、はるか昔の事のような気も致します。私のロータリー歴61年、即ち、高松南ロータリークラブの歴史62年は、アメリカの歴史の、四分の一に相当します。

私の年歳86年は、アメリカの歴史の三分の一の長さです。そして、ロータリーの歴史は、アメリカの歴史の二分の一弱の長さ、という事になります。

アメリカ・シカゴ生まれのロータリーは、その思想の根底はキリスト教、言語はもちろん英語でありまして、東京ロータリークラブの会報は、昭和33年に於いても、すべて英文で印刷されていました。東京クラブの会員全員が、英語が読めたかどうかは疑問ですが、とにかく、国際RCへ復帰直後の日本ロータリーは、アメリカに忠実でありました。

その東京ロータリークラブも、来年2020年には、創立100周年を迎えます。

#### アメリカの歴史 243年



さて、本日は職業奉仕の話であります。

職業奉仕を理解するには、「ロータリー運動は倫理運動である」、という事を理解しなければなりません。倫理とは「人が正しく歩む道」です。人を泣かせるような金儲けをしてはいけない、人をだまして金儲けをしてはいけない、世のため人のために奉仕する心をもって職業を営むべし、ということです。

ロータリーの例会は、めしを食う為に集まっているわけではありません。卓話を聞いたり、会員同士が語り合ったりして、職業倫理を学ぶのが例会です。卓話一度聞いても忘れてしまうでしょうが、何度も何度も聞いているうちに、次第に自分自身の身についてくるものであります。丁度、クリスチャンが毎週日曜日に教会に行き、神に祈って心を洗うのと同じように、高松南ロータリアンも、毎週水曜日に例会に出席して、自己啓発に努めるのであります。私の精神も肉体も、水曜日イコールロータリーと、もう条件反射のようにインプットされています。

ロータリーの魅力というのは、その提唱する奉仕哲学、利己と利他との調和、超我の奉仕、親睦、高潔性、多様性、リーダーシップなどを通して、自らを高めることではないでしょうか。

その為には、クラブの教育力を高めることが絶対必要です。ロータリアンは、もっと勉強しなくてははいけません。米山梅吉氏もその昔「ロータリーの例会場は、人生の道場である」、と高らかに言っておりますが、人生哲学をクラブで学んで、自分自身を高めて行く。私達はロータリーを通して、人間的に成長して行くのです。

縁あって、私達はロータリーの世界へ入ったのですから、誇りを持って、すばらしいロータリー人生を歩もうではありませんか。

さて、「職業奉仕こそはロータリーの金看板」と言われながら、その意味が正しく理解されないまま、最近ではこの看板も色あせてきたようであります。

「職業奉仕」とは、アーサー・フレデリック・シュルドンが、ミシガン大学経営学部で専攻していた販売学と、自分のセールスマンの経験から得た知識をもとに、20世紀の経営学として教えていた内容を、そのままロータリーの奉仕理念として取り入れた、独自の思考であります。今から約100年前の思想であります。

この職業奉仕理念に則った企業経営をすれば、継続的に最高の利益が得られることを証明する、実践理論でもあります。

ロータリーの様々な奉仕活動等の受益者は、ロータリアン以外の人々ですが、職業奉仕の受益者はロータリアン自身である、というのが重要なポイントであります。

それを端的に示した motto が、He profits most who serves best.

即ち、「最もよく奉仕する者が、最も多く利益を得る。」であります。英語のVocational Service、これを職業奉仕と訳しているのですが、元々日本語には、職業奉仕という言葉や概念はありません。広辞苑など大きな字引を引いても、職業奉仕という日本語はないのです。

ですから、職業奉仕という言葉ほど、分かったようで分からない言葉はないと言われてます。

職業奉仕とは、とにかく真面目に自分の職業に励んだらいいのだろう、と言うロータリアンが多いのですが、ただ真面目に一生懸命に仕事をするだけが職業奉仕なら、ロータリアンでなくたって、お百姓さんだつて、一般の労働者だつて、みんな一生懸命に職業に励んでいますよね。ことさらロータリアンだけが奉仕、奉仕と言うことはないのです。

また、職場訪問などして、職業奉仕をしたとするのは見当違いであります。職場訪問例会は職業奉仕ではなく、社会奉仕であります。

職業のことを英語でvocation (ボケイション) といいます。vocaというのは、ラテン語で口のことです。転じて声、天の声、神の声であります。神様から与えられた天職をボケイシ

# 例会

ンといます。

中世カソリック、キリスト教世界では、職業、すなわちオキュベーションには2種類ありました。

ビジネスとプロフェッション、この2つを厳然と分けて考えるのが、キリスト教世界、欧米の考え方でありまして、21世紀の現代に於いても、ロータリーでは、この価値の異なる2つの言葉を峻別して、並べて書いてあるところに注目をしてください。職業奉仕の根源的な意味が、そこにあるからです。

Object of Rotary、ロータリーの目的、これは長い間、綱領という日本語に訳されていましたが、このオブジェクト・オブ・ロータリーの中で、ビジネス・アンド・プロフェッションとあるのを、「事業及び専門職務」と、下手くそな日本語に訳しているのが、一層意味が分かりにくくなっているのです。

「事業及び専門職務の道德水準を高めること。あらゆる有用な職務は尊重されるべきであるという認識を深めること。そしてロータリアン各自が 業務を通して、社会に奉仕するために、その業務を品位あらしめること」と、難しそうに書いてあります。

英語の原文では、「High ethical standers in business and professions」「The recognition of the worthiness of all useful occupation」「and the dignifying by each Rotarian of his occupation as an opportunity to serve society」。

ビジネスとプロフェッションの高い倫理的基準、そしてすべての有用な職業の価値を認め、社会に奉仕する機会としての職業に、権威あらしめるべし、と読めます。

これを「商人及び聖職に携わる人々」と訳すと、すっきりとわかるように思います。元々、ヨーロッパ中世の人々の生活はカソリックの教会が中心で、キリスト教がすべての人間生活を支配していました。全て宗教から出ているのです。

そこで勉強した人達は、例えば僧侶、学者、医者などになって、人々を無報酬で救済したのであります。このところが、大事なポイントであります。困っている衆生を救済する。それも無報酬であった。だから聖なる職業なのであります。

このように金銭や対価を求めず、ひたすら困っている人々を救う、聖なる職業をプロフェッションと言ったのであります。

今、プロという言葉が流行っていますね。プロ野球とかね。プロゴルファーとか、プロ、プロと言って莫大な金を儲けていますが、本当はそうじゃない。医者も、学者も、僧侶もプロフェッションというのは、人助けをする菩薩でありまして、金儲けはしないのであります。

これに対して利潤追求を目的とする、商人ですね。ルネッサンス以前の中世ヨーロッパではあきんどや金貸しは、いやしい職業とみなされていたのであります。ベニスの商人のシャイロックのように、金儲けを際限なく追求したら、どうなるか。究極において餓鬼・畜生の世界にまで、墜落してしまうかもしれません。

そこでロータリーにおいては、ビジネスにも倫理、道德の導入を呼びかけているのであります。ロータリアンが奉仕の心に目覚め、自己研鑽を重ね、欲望を抑制する。これが大事なところですよ。

人間、皆、欲があります。際限なく儲けたい。際限なく出世したい。しかし、それをちょっと控えめにして、欲望をコントロールする。利己と利他との調和であります。

そして自分の境地を高め、自分自身の倫理的、道德的水準を向上させれば、その結果として、ビジネスマン、すなわち商人も、プロフェッション、すなわち聖なる職と同格にまでレベル

アップするのだという。これがロータリー職業奉仕の要点であります。

ロータリアンは、職業を通して自己改善をし、自分自身をレベルアップします。例会出席を通して、優れた友人達と交わり、切磋琢磨して、自己の道德的水準を高めるのです。

そして質的に向上した、その良質なエネルギーを家庭に持ち帰って、奥さんや子供を大切にあげて。自分の職場に持ち帰って、従業員に優しくして、良い給料を払ってあげる。取引先や下請けをいじめない。取引先に儲けさせてあげる。そういうことを毎日、少しずつ積み重ねていきますと、私達ビジネスマンは、人間として非常にレベルアップするわけでありまして。

そして家庭や職場に、地域社会に、良質なエネルギーを放流して、社会改善をするのであります。自分が向上することを、セルフ・ベターメントといいます。社会を良くするのを、ソーシャル・ベターメントとっております。

職業を通して、自分自身が質的に向上する。すなわち自己研鑽が奉仕につながる。この図式こそが職業奉仕であります。従って、職業奉仕から利益を得るのはロータリアン、あなた自身なのであります。

以上が、40年以上昔、千種会という勉強会で、私が中央大学名誉教授小堀憲助先生から学んだ概要であります。小堀流ロータリーの理想論は、若き太田の情熱をかり立てて、遂に、高松市長選挙に立候補するに至ったのであります。

一途に、世の為人の為に、私の人生に決定的な影響を与えた恩師、小堀憲助先生も、残念ながら先年、90才を目前にして、あの世へ旅立たれました。また、小堀先生の弟子、兵庫県の深川純一先生も、もう一方の論客、東京の佐藤千寿さんもこの世を去り、日本ロータリーの精神的支柱も空洞化が進んでいるのは淋しい限りであります。

ポール・ハリスは言いました。ロータリーという物語は、何度も書き替えるなければならないでしょう、と。しかし、ロータリーには、変えなければいけない部分と、変えてはいけない部分とがあります。その変えてはいけない部分が、近頃、音を立てて崩れているような気がしてなりません。

それは、会員増強にのみ狂奔するRIの墮落であります。そして、ロータリー発祥の老家本元である米国に、およそロータリーの理想と正反対のような、私利私欲、俺さえよければ人はどうでもよい、アメリカファーストと叫ぶ、トランプ大統領が出現したことであります。金儲けのために、世界中にケンカを吹っかけるトランプ大統領と、奉仕の理想をかかげるロータリーが、どう折合いをつけて行くか。今後、これが大きな宿題であろうと思うのであります。

## ココロ箱

- 山地会員「ホームクラブ長期欠席のおわび、ゴメンナサイ！」
  - 岡(隆)会員「職業奉仕ご講和ありがとうございます。姿勢正しく頑張ります。」
  - 高島会長「誕生日のプレゼントありがとうございます。今年度も1/4ヶ月が終わりました。頑張りますので、ご協力をお願いします。」
  - 吉田会員「誕生月のお祝いありがとうございます。ロータリーのために頑張ります。」
  - 堀川会員「誕生日プレゼントありがとうございます。」
- 計¥19,000 合計¥115,000

## 会員掲示板

- メークアップ 豊田PDG
- ロータリーソング 「国歌」「四季のうた」「パースデーソング」 ソングリーダー 新地会員

## 2019年11月例会予定 ロータリー財団月間

No.	日	時間	場所	例会プログラムおよびその他	備考
18	6	12:30~	JRホテルクレメント高松	クラブ臨時総会（会長ノミニー指名委員会）	
19	13	12:30~	JRホテルクレメント高松	各委員会ミーティング	
20	20	12:30~	JRホテルクレメント高松	卓話「サンポート高松トライアスロン2019に参加して」 新地良洋 会員	
21	27	12:30~	JRホテルクレメント高松	客話「夏季研修会の報告」 香川県立高松養護学校 自立活動室 支援教育部 谷口公彦様	

## 2019年12月例会予定 疾病予防と治療月間

No.	日	時間	場所	例会プログラムおよびその他	備考
22	4	12:30~	JRホテルクレメント高松	クラブ年次総会（会長ノミニー選挙、新理事選出）	

### 11月の誕生者

～おめでとうございます～

渡辺 成剛（8日）

### 9月出席率

例会日	正会員	出席免除	免除出席	出席数	欠席数	補填数	補正出席数	出席率
9月累計	240	56	31	151	47	19	168	79.00 %

### 編集後記

日本人には非常に長い年月をかけて築上げてきた文化的な「価値観」があります。例えば、針供養に象徴されるように日々の生活に使っているモノにまで魂が宿るという考え方は日本特有だと思います。それは、文化的な道具だけではなく、生活の必需品にも精巧な技術が使われていて、そうしたモノづくりが日本の製造業の原点にもなっています。日本の製品は今も世界中から尊敬されています。高い「技術」だけでなく、作る人が自分の仕事に誇りを持ち、そのプライドをかけて特別な注意を払って作っているからです。

しかし、これからは100%日本人の職場はなかなかみ

られなくなります。少子高齢化社会への対応の一つとして外国人労働者の基幹部分への受け入れです。なんか、ここ1か月日本中を興奮の坩堝と化したラグビー日本代表チームの8強入りの活躍はそんな心配を吹っ飛ばしてくれます。力と体力のスポーツに選手をして「誇りに思う」と言わしめた極めて日本的なきめ細やかなプレーがひかる試合の連続でした。しかもラグビーが生んだ場外プレーの数々は台風19号の被災者の皆さんのみならず日本人に、世界中に感動と感謝を与え続けました。そこにきらりと光るロータリーの奉仕のこころを見出せる11月号です。ご高覧ください。（編集子）

（先号の訂正）委任戦術の正しい独語はAuftragstaktikでした。